

「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ策定方針 について（案）」に関する意見募集の結果について

(1) 令和元年12月12日（木曜日）～令和元年12月25日（水曜日）

(2) 意見総数 9件

(3) 意見

【ロードマップ2020の評価の観点 ①計画の学術的意義 について】

●「計画の学術的意義」を評価の項目にたてることに異議はないが、挑戦性、総合性、融合性、国際性の記載については再検討すべきである。この大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップは、「研究者コミュニティ」が実施主体となって企画立案、実施を進めており、科研費で掲げられるような研究者個人に着目した項目を掲げるとは不適切と考える。例えば、挑戦性の評価は、天文衛星や放射光光源施設の場合、研究者の知より研究者コミュニティが我が国の研究力向上を前提に計画を企画していると考えられる。

よって、評価項目は、若手研究者の養成やSDGSへの貢献などが計画の構想にしめされているかを問うべきではないか。国際性は、研究計画の戦略性で問うているので重複の項目の可能性はある。

例えば、

- ・（当該計画の実施が）次代の研究者（若手研究者）の育成にとって魅力あるものであるか（将来性）
- ・（当該計画の実施が）世界の学術コミュニティにおける議論や検証を通じて、世界で通用する卓越性を獲得するなど世界に貢献することができるか（国際性）
- ・我が国の学術基盤を新たに構築若しくは強化するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）に係る課題の解決に寄与できるか（総合性）

というものが考えられる。

●今回追加された4つのポイント（挑戦性、総合性、融合性、国際性）を挙げたのは、どういう背景、理由からなのか分かりやすい説明をお願いします。

【ロードマップとマスタープランの関係性について】

●「ロードマップの策定について、マスタープランの個別計画の内容とは中立的に本作業部会の独自の方針に基づき作業を進めるため、マスタープランの個別計画の公表に先立ち、次期ロードマップ（以下、「ロードマップ2020」という。）の策定に当たっての基本方針を策定するものである。」としているが、マスタープラン作成内容について

て、本作業部会は一切の接触はないのか？特定の計画を通しやすいように、あるいは逆に通りにくいように作為的に基本方針を定めていないことを明言できるのか？事務局のメンバーや部会のメンバーは歴然と分かれているのか？ダブっているの人物は皆無なのか明確にお示してください。

【体裁に関して】

- 変更部分以外についての意見で恐縮ですが、1ページの1. の1行目「以下」と9行目「以下、」とは、どちらかに文言を統一したほうがよいと思います。
- 2ページの2-3. の5行目から11行目までの文末に句点「。」を記したがほうがよいと思います。他の箇所と同様に。
- 2ページの2-3. の10行目「コミュニティー」は「コミュニティ」としたほうがよいと思います。13行目及び最下行の「コミュニティ」と同様に。
- 5ページ及び6ページの表中の下線は変更部分を示していることと、(旧)欄の「(新規)」は注記であることを、凡例として記載したほうがよいと思います。